

2021年3月期 第3四半期 決算補足資料

1. 決算概観（連結）
2. 業績のポイント
3. 業績の状況
4. 主要製品の状況
5. 開発品一覧
6. 業績と予想（連結）

2021年2月4日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。



2021年3月期 第3四半期 決算概観（連結）

（単位：百万円）

	18年3月期 第3四半期	19年3月期 第3四半期	20年3月期 第3四半期	21年3月期 第3四半期	増減率 (%)	21年3月期 (予想)	前年比 (%)
売上高	82,923	82,017	78,614	74,955	-4.7%	108,000	-1.8%
営業利益	7,805	6,794	5,271	4,114	-21.9%	7,800	+4.0%
経常利益	8,246	7,124	5,836	4,656	-20.2%	8,400	+2.7%
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	6,119	5,112	4,374	4,504	+3.0%	7,200	+17.1%

21年3月期 第3四半期 連結業績（実績）

【売上高】 主力製品「デザレックス」「ベオーバ」は伸長したものの、薬価改定の影響及び新型コロナウイルス感染症拡大に伴う受診抑制等により、主力製品市場はマイナス成長で推移し、新医薬品等（国内）は前年を下回る実績となりました。一方、モメタゾン（AG）、イミダフェナシン（AG）が伸長し、後発医薬品の売り上げが増加したものの、全体の売上高は前年同期比36億58百万円減（前年同期比4.7%減）の749億55百万円となりました。

【利益】 売り上げ減少等により、売上総利益が前年同期に対して23億14百万円減少しました。他方、販売費及び一般管理費はコスト削減への取り組み及びMR活動の自粛等により、前年同期に対して11億57百万円減少（内、研究開発費18百万円増）し、営業利益は41億14百万円と前年同期比11億56百万円の減益（前年同期比21.9%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、特別利益を計上したことから45億04百万円（前年同期比3.0%増）となりました。

21年3月期 連結業績（予想）

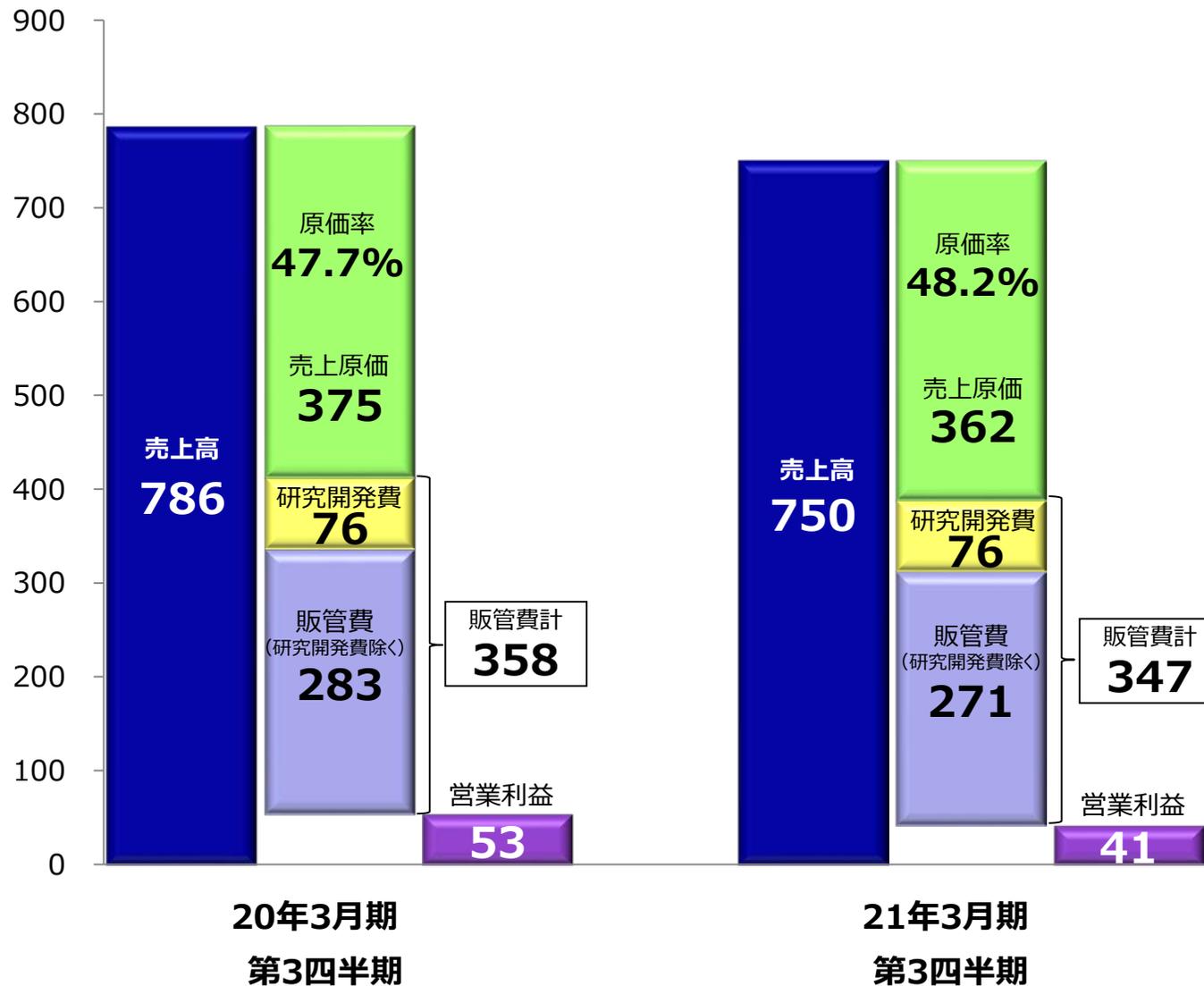
現時点におきまして、2020年11月5日に公表しました（通期）連結業績予想を変更しておりません。

（通期の業績予想に対する進捗度 売上高：69.4% 営業利益：52.8%）

2020年5月12日に公表しました配当予想（年間75円/株）の変更はございません。

2021年3月期 第3四半期 業績のポイント

(単位：億円)



【ポイント】

- ▶ 売上高は前年同期比36億円減少
- ▶ 売上原価率は0.5ポイント上昇
 - ・薬価改定の影響
 - ・後発品比率の上昇
- 売上総利益は前年比23億円減少
- ▶ 販管費は前年同期比11億円減少
 - ・研究開発費は横ばい
 - ・販管費（研究開発費除く）は12億円減少
- 営業利益は前年比12億円減少

2021年3月期 第3四半期 業績の状況

(単位：億円)

(対前年差額)

	20年3月期 第3四半期	21年3月期 第3四半期	対前年 差額
売上高	786	750	-36
新医薬品等（国内）	554	517	-37
新医薬品（海外）	12	8	-4
後発医薬品	220	225	+5

営業利益	53	41	-12
経常利益	58	47	-11
親会社株主に帰属する 四半期純利益	44	45	+1

2021年3月期 第1四半期連結累計期間より、報告セグメントの区分（「医療用医薬品事業」「ヘルスケア事業」）を集約し、単一セグメントに変更しました。
これに伴い、売上高の区分を変更し、従来の「新医薬品(国内)」と「ヘルスケア事業」を合わせて「新医薬品等(国内)」としております。
なお、「新医薬品(海外)」「後発医薬品」に変更はありません。

■ 売上高	750億円	(-36)
● 新医薬品等（国内）	517億円	(-37)
	20.3 (3Q)	21.3 (3Q)
・フルティフォーム	108	⇒ 102 (-6)
・デザレックス	8	⇒ 31 (+23)
・ベオーバ	22	⇒ 55 (+33)
・ラスピック	6	⇒ 6 (0)
・ペンタサ	103	⇒ 98 (-5)
・ウリトス	46	⇒ 20 (-26)
・ナゾネックス	38	⇒ 12 (-26)
・キプレス	86	⇒ 59 (-27)
・ムコダイン	45	⇒ 25 (-20)
● 海外新医薬品	8億円	(-4)
ガチプロキサシンの売上減少等		
● 後発医薬品	225億円	(+5)
ナゾネックスのAGの売上増加、及びウリトスのAG(6月発売)、20年度追補品の売上が寄与		
■ 営業利益	41億円	(-12)
◆ 営業利益率は5.5%と前年比1.2ポイント減少		
● 原価率：前年比0.5ポイント上昇（47.7%⇒48.2%）		
【上昇要因】薬価改定、後発医薬品の売上比率の上昇		
【低下要因】プロダクトミックスの影響、原価低減の取り組み（原材料費等）		
● 研究開発費率：前年比0.5ポイント上昇（9.6%⇒10.1%）		
・研究開発費は横ばい（76億円⇒76億円）		
● 販管費率（研究開発費除く）：前年比0.2ポイント上昇（35.9%⇒36.1%）		
・12億円減少（283億円⇒271億円） 主に販売費、一般経費の減少		
■ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	45億円	(+1)

JSTからの長期借入金に対する返済義務の一部免除による債務免除益、及び固定資産売却益を特別利益に計上

2021年3月期 第3四半期 主要製品の状況

(単位：億円)

		20年3月期 第2四半期	21年3月期 第2四半期	20年3月期 第3四半期	21年3月期 第3四半期	対前年 差額	増減率 (%)	20年3月期 (実績)	21年3月期 (予想)
新医薬品等 (国内)	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	67	64	108	102	-6	-5.2%	146	145
	デザレックス (アレルギー性疾患治療薬)	0	18	8	31	+23	+294.3%	26	75
	ベオーバ [®] (自社販売分) (選択的β3アドレナリン受容体作動性過活動膀胱治療剤)	6	38	22	55	+33	+151.2%	43	73
	ラスビック錠 (キノロン系経口抗菌剤)	-	2	6	6	0	+1.7%	11	17
	ペントサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	68	64	103	98	-5	-5.3%	133	125
	ウリトス (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	30	16	46	20	-26	-56.9%	58	22
	ナゾネックス (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	27	6	38	12	-26	-67.6%	60	24
	キプレス (成人製剤) (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	24	17	38	27	-11	-27.6%	53	38
	キプレス (小児製剤) (気管支喘息治療剤)	30	18	48	31	-17	-35.3%	65	43
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	28	14	45	25	-20	-44.1%	58	33
	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	11	11	17	17	0	+2.1%	24	23
ルピスタ (環境除菌・洗浄剤)	6	10	10	16	+6	+54.6%	15	21	
後発 医薬品	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	54	45	83	73	-10	-11.9%	115	102
	モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	4	9	11	17	+6	+57.6%	28	35
	イミダフェナシン錠「杏林」 (過活動膀胱治療剤)	-	3	-	5	+5	-	-	8

開発品一覧① (2021年2月4日現在)

PhⅢ ~ 承認

※前回 (2020年11月5日) からの変更点

開発段階		製品名/ 開発コード	適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
承認※ (20年11月)	—	ラスビック点滴静注 キット150mg/ KRP-AM1977Y	肺炎、肺膿瘍、慢性呼 吸器病変の二次感染	自社	下気道感染症治療に特化して開発した新規キノロン注射剤 1. 肺に高濃度分布し、呼吸器感染症の起炎菌に強い 抗菌力を示す 2. 好気性菌と嫌気性菌双方に有効、かつ1日1回投与が 可能 3. 誤嚥性肺炎、肺化膿症・肺膿瘍に対しても有効性が 確認された	
承認※ (21年1月)	—	ジムソ膀胱内注入液 50%/ KRP-116D	間質性膀胱炎	—	医療上の必要性の高い未承認薬・適用外薬に該当する 「ジメチルスルホキシド」	

・慢性咳嗽治療剤「MK-7264」販売協業に関する覚書締結 (19年5月) MSD PhⅢ

POCプロジェクト (Ph I ~ Ph II)

開発段階		製品名/ 開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph I (20年7月)	Ph I b/ II a (aTyr社:米国)	KRP-R120	間質性肺疾患 (肺サルコイドーシス)	aTyr社 (エイタイヤー)	融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2 受容体(NRP2) に結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用 を有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシ ス等の炎症疾患への効果が期待される	

開発品一覧② (2021年2月4日現在)

導入品の状況

開発段階		製品名/ 開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph II (19年12月) あすか製薬	—	AKP-009	前立腺肥大症	あすか製薬	新規アンドロゲン受容体モジュレーター作用を有し、前立腺縮小作用に加えて排尿機能改善作用を併せ持つ、新しい前立腺肥大症治療薬として期待される	日本国内における共同開発及び販売等に関する契約を締結 (20年9月)

導出品の状況

開発段階 /海外	製品名/ 開発コード	導出先	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
Ph I	FPR2作動薬 プログラム	BMS社 (ブリストル・マイヤーズスクイブ)	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す	BMS社とライセンス契約 (15年12月)
Ph I	KRP-203	Priothera社 (プリオセラ)	—	自社	S1P受容体アゴニスト	本剤の開発・販売等に要する特許・データ等の知的財産および原薬等を譲渡 (20年9月)
非臨床	感音難聴開発 化合物	Otonomy社 (オトノミー)	感音難聴	自社	感音難聴を対象とした新規開発候補化合物	難聴等の耳科を対象とする全世界における開発、製造、販売に関する独占的権利を供与 (20年8月) 杏林製薬は日本における販売権を留保 Otonomy社 開発コード：OTO-6XX

2021年3月期 第3四半期 業績と予想 (連結)

(単位：百万円)

	20年3月期 第2四半期	21年3月期 第2四半期	20年3月期 第3四半期	21年3月期 第3四半期	対前年 差額	増減率 (%)	20年3月期 (実績)	21年3月期 (予想)
売上高	48,299	47,735	78,614	74,955	-3,658	-4.7	109,983	108,000
新医薬品等 (国内)	33,742	32,857	55,351	51,671	-3,679	-6.6	77,535	73,800
新医薬品 (海外)	390	527	1,224	755	-468	-38.3	1,490	1,100
後発医薬品	14,166	14,351	22,038	22,528	+489	+2.2	30,957	33,000
営業利益	783	1,502	5,271	4,114	-1,156	-21.9	7,503	7,800
経常利益	1,076	1,813	5,836	4,656	-1,180	-20.2	8,175	8,400
親会社株主に帰属する 四半期 (当期) 純利益	834	2,118	4,374	4,504	+130	+3.0	6,149	7,200

2021年3月期 第1四半期連結累計期間より、報告セグメントの区分（「医療用医薬品事業」「ヘルスクア事業」）を集約し、単一セグメントに変更しました。これに伴い、売上高の区分を変更し、従来の「新医薬品(国内)」と「ヘルスクア事業」を合わせて「新医薬品等(国内)」としております。なお、「新医薬品(海外)」「後発医薬品」に変更はありません。